

いなべの農業

担い手さん

今回は若手で認定農業者として、イチゴのハウス栽培に励んでいる員弁町の多湖さんを紹介します。

多湖 文貴さん(員弁町大泉新田)



経営規模はどれくらいですか？

イチゴを10aのビニールハウス5連棟で栽培しています。あと、水稻を12ha、麦を5ha作っていて、トラクター3台、コンバイン1台、8条植えの田植機1台で作業しています。両親と忙しいときにはパートの人に手伝ってもらいながら行っていて、私はイチゴ栽培を主に担当し、「あきひめ」「紅ほっぺ」という品種を作っています。イチゴは、うりぼろ・いなべっこ・蟹江の市場等へ出荷しています。自宅で直売もしているんですよ。

イチゴ栽培をしようと思ったきっかけは？

以前は飲食関係の仕事をしていたのですが、勤め先で親が作ったイチゴを出す機会があり、食べた人の笑顔を見て「親の仕事を継いでみよう」「親の代で終わらせてはだめだ」と思い1年半くらい前にこの仕事に就きました。今ではイチゴの魅力に取りつかれています。



大変なことはどんなことですか？

一番は天候に左右されることですね。大きさや甘み、品質などハウスの中であっても影響されますので管理が大変です。また、勤めと違って自分で何もかもを計画してやらなければならないことですね。あとは田の作業と重なる時期はとても忙しいです。



心掛けていることや今後の目標は？

今後は、イチゴをメインに規模の拡大を考えています。何と言っても、甘くおいしいイチゴで、安全安心、清潔なものを作って、食べた人が自然に笑顔になるような良いものにしていきたいです。

問 藤原庁舎 農林商工課 T 46-6306 F 46-6319

編集後記

みなさん、マイバッグを持っていますか？「レジ袋は家で使うのに便利だからマイバッグは持たないよ！」という方、「レジ袋に入れる手間がかからないからマイバッグの方が楽でいいし、ポイントももらえてお得感もあっていいよ！」という方、みなさんはどちらでしょうか。また、小物などは、お買い上げシールだけ張ってもらうことでレジ袋が減ります。あなたの少しの心がけで「地球を救える」といったらどうですか？今日からあなたもおしゃれなマイバッグを持って、買い物に出かけませんか？

いなべいきいきマイタウン

▶ ニジマス放流会

4月3日、今年も桑員河川漁業協同組合主催のニジマス放流会が開催されました。



会場の員弁河川敷には、いなべ市・東員町・桑名市内の授産施設通所者のみなさんが招かれ、たく

さんのニジマスを放流しました。

放流後、みんなでニジマスの塩焼きを試食。花冷えの中、元気いっぱいおいしそうに塩焼きをほおぼる姿がほほえましく、とても印象的でした。



情報提供：広報秘書課

発行/〒511-0293 いなべ市員弁町笠田新田111番地 T 0594-74-5820 F 0594-74-5821
編集/企画部 広報秘書課 <http://www.city.inabe.mie.jp/>
平成20年5月1日発行 Vol.54



生活情報「まいめろ」
QRコード



モバイルサイト
QRコード



いなべ市ホームページ
(携帯電話用) QRコード

※記事にあるQRコードは一部の携帯電話でご利用にならない場合があります。